

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年12月12日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103920
法人名	社会福祉法人 陵風会
事業所名	グループホーム 西谷山
所在地	鹿児島県鹿児島市上福元町5604番地 (電話) 099-260-1343
自己評価作成日	令和5年10月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和5年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

共同生活において明るい家庭的な雰囲気の中で、日常生活のお世話及び生活リハビリを行うことより利用者がその有する能力に応じた生活ができるよう明るい笑顔の絶えない雰囲気作りを理念において運営を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、協力医療機関との緊急時を含めた連携体制が整っており、定期受診や往診の利用、週1回の訪問看護による健康チェックもあり、利用者・家族の医療面における安心につながっている。
- ・コロナ感染症予防対策で、地域との交流や外出が制限されているが、高校生の介護実習受け入れや運営推進会議の対面開催など、少しずつ以前の生活にかえりつつあり、当事業所でも今後は計画的に外出支援に取り組む計画である。
- ・家族との窓越し面会や事業所から毎月「西谷山通信」と写真を送付して近況を報告し、家族とのつながりが途切れないよう支援している。
- ・管理者と職員は、外出や他との交流が制限されている中、可能な限り戸外での生活を工夫し、生活リハビリに取り組む等、利用者がそれぞれの力を活かして生活できるよう支援に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	いつでも確認ができるようスタッフルームとホールへ理念を掲示し、朝礼時に唱和し共有と実践につなげるよう心掛けています。	理念は事業所の玄関やスタッフルームに掲示し、朝礼時に唱和して確認するとともに、パンフレットにも掲載している。職員会議やカンファレンス時に理念に沿ったケアを実践しているか振り返っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会には加入しているが、入居者の重度化や高齢化があり行事等参加が難しくなっている。またコロナ感染対策のため地域との交流は行えていない。	町内会に加入しており行事参加への声掛けはあるが、コロナ感染予防のため参加は自粛している。地域住民との交流は困難であるが、高校生の介護実習受け入れは今年度から実施している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	コロナ感染対策のため地域との交流は行えていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染対策により文書での報告を行う。コロナ5類へ移行後に会議を再開、出された意見は職員会議で共有し運営やサービス向上に反映させている。	運営推進会議は5月から対面で2ヶ月毎に実施している。事業所のヒヤリハットを含めた状況報告及び意見交換を実施しており、他事業所の情報や事業所内活動への意見等をサービス向上に活かすように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	事故やコロナ発生時など速やかに市町村への連絡を行い必要な支持を仰いでいる。日頃から連絡、連携を図り協力関係を築くよう取り組んでいる。	市の介護保険担当者とは電話・FAX・メールを活用し、生活保護担当者とは来訪時や電話で、意見交換や報告・連絡を行い、協力関係を築くよう取り組んでいる。市の研修会はリモートで受講している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に当たる行為の再確認や理解を図れるよう施設内での研修を行い、拘束のないケアの実施に努めている。	指針を作成しており、委員会及び研修会を3ヶ月に1回実施し、身体拘束について正しく理解できるよう取り組んでいる。不適切な言葉は気づいた時に管理者から注意を促している。日中は玄関の施錠はせず外に出ていく利用者には職員が散歩に同行する等、利用者の行動を制限しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての施設内研修を行い、日々のケアを振り返りも行っている。職員間でも言葉遣いや行動など注意しあうようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関する制度の理解や活用は十分には実施できていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居の際には重要事項説明書に添って説明を行い理解、納得を得た上で契約を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族や入居者からの相談や意見があった際には必ず管理者への報告と会議での検討を行い、運営や日々のケアに反映できるよう取り組んでいる。</p>	<p>利用者には日常会話の中で懇談し、食べ物の希望等は行事の際に取り入れている。家族には、面会時等に要望を聞き対応に努めている。「手が浮腫み易い為に手湯をして欲しい」との要望を受け、ケアに反映し取り組んでいる。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>日々の業務の中で職員からの意見を聞き、必要に応じて職員会議で検討をしながら運営や業務に反映できるよう取り組んでいる。</p>	<p>日常業務の中や毎月の職員会議時に職員の意見を聞き、法人に備品購入を依頼したり、カンファレンス時に検討しケアの統一を図るなど、業務の中に反映できるように努めている。個別相談は管理者が受け必要時は法人に報告している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>人事考課の実施や管理者との連携により職員の状況を把握し、給与水準など職場環境や条件の整備に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員一人一人の把握には努めているが、コロナ感染対策もあり法人外での研修参加などは行えていない。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者との交流の機会は持っていないため、サービスの質の向上にも繋がっていない。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際の面談や入居されてからも会話を通して不安や要望などの把握に努め、安心して施設での生活やケアを受けて頂けるよう信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談を行い施設での生活についての不安などある時には十分に説明など行い、安心して入居して頂けるような対応を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族との面談から生活歴や現状を把握し、本人にとって必要な支援を検討し実施している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬の気持ちを常に持ち、昔の話や生活の知恵など教えて頂きながら共に生活していけるよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>月1回西谷山通信を家族へ総菱日々の生活の様子など報告している。面会や電話の際にも生活や心身の状態、施設での支援やケアの状況を報告し家族との情報共有に心掛けている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>コロナ感染対策により面会や外出に制限があったため十分な支援は行えていない。</p>	<p>家族との窓越し面会や電話での交流を支援しており、事業所からも毎月「西谷山通信」で個別に近況報告を行い、家族との関係が途切れないように努めている。友人との電話での交流も支援している。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>食事やお茶、余暇時間にはホールで過ごして頂き、入居者間のトラブルなど配慮しながら交流を楽しんで頂けるよう心掛けている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退去後も家族からの連絡や相談には対応し、体調や生活の確認や助言など必要に応じて行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活や心身状況の確認や会話を通して生活への要望や意向の把握に努めている。	日常会話の中で、選択肢を示すなど工夫して本人の意向を把握できるよう取り組んでいる。困難な場合は、家族や入居前サービス事業所からの情報を参考に、本人の表情・仕草等から職員間で話し合い、思いをくみ取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前と近い生活ができるよう生活歴や職歴、趣味や好きだったことなど本人や家族から話を聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活動作や日課への参加、心身状況を把握し、個々の入居者に応じた生活ができるよう心掛けている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向、心身や生活状況などアセスメントを十分に行った上でプランを作成し、モニタリングや職員からの意見を参考に必要時にはプランの見直しを行っている。	本人・家族の意見を把握し、カンファレンス時に出された職員の意見を加えて介護計画を作成している。モニタリングを3ヶ月毎に実施し、6ヶ月毎及び状況変化時に現状に即した計画に見直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の体調や生活、心身状況とケアの状況を個別に記録し、職員の情報共有やケアの振り返り、必要時には記録をもとにしてプランの見直しも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内ではその時のニーズに応じての支援を検討し実践している。必要時には訪問看護や訪問マッサージの導入を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	鹿児島市のオムツ助成応じたや往診、医療連携など一人一人に応じた資源の利用を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回は主治医定期受診を行い体調の報告を行っている。体調変化時にもすぐに主治医へ報告し指示を仰いでいる。	契約時に協力医療機関以外は家族対応の受診になることを了解してもらっている。全員が月1回の定期受診や月2回の往診を利用しており、緊急時を含め適切な医療が受けられるよう支援している。週1回の訪問看護による健康チェックも実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日々のケアを通して得た情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の医療連携による看護師の訪問時に体調変化など相談し指示を仰いでいる。急な体調変化時にもすぐに報告し受診など行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には情報提供書を提出し、入院中も定期的に連絡し状態把握に努めている。退院時にも状態の確認を行い、サマリーなどによりスムーズに施設での生活ができるよう情報収集を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	心身状態や体調の変化の変化については家族へも報告し、必要時には主治医も交えて重症化や終末期に向けての支援の検討を行なっている。	契約時に重度化等の場合の対応について説明し、同意書ももらっている。状況変化時に家族の意向を確認し、意向に沿って支援に取り組んでいる。今のところ全員が最終的に入院希望であるが、今後、看取り介護の要望があれば対応を検討する予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	体調変化時などの対応や応急処置については医療連携時に看護師に指導を受け実践につなげている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の避難訓練により災害時の対策や避難方法について施設内での確認は行っているが、地域との協力体制は築けていない。</p>	<p>年2回昼夜想定避難訓練を実施し、1回は消防署の指導を受けている。地域との協力体制はこれからであるが、町内会長に訓練前の連絡はしている。非常用の備蓄は、3日分の水・缶詰・レトルト食品・カップ麺等の食料品とカセットコンロを確保している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の入居者に応じて分かりやすく丁寧な言葉掛けを心掛けている。	個々の利用者に応じた言葉かけに努めている。誇りやプライバシーを損ねないように、さん付けでの呼びかけや入室時のノック、ケア前の声掛け、トイレの戸を閉める等を実施している。申し送りは事務所等で内容がわからないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	うまく自己表出ができない入居者にも、声掛けなど工夫しながら思いや希望を伝えられるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の入居者の生活ペースを把握し、好きなことを楽しんだりしながら過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	着替えの準備の際には好きな洋服を選んでもらったりと、身だしなみにも本人の希望が取り入れられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嗜好にあった献立を食事を楽しんで頂けるよう取り組んでいる。食後のお盆洗いや台拭き、自分で使ったエプロンをたたんでもらうなど出来ることを行ってもらっている。	好みを聞いて献立を作成し、個々に応じた食事形態で提供している。お盆拭き等を一緒にしている。代替品も準備し、季節の行事食や誕生日のケーキ・好物、寿司の出前、玄関前でのお茶等で食事を楽しんでもらえるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態に応じての食事形態や好きな飲み物を用意し、適切な栄養や水分摂取ができるよう個々に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けや介助をし歯磨きや義歯洗浄など、個々に応じた口腔ケアを行い口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し個々に応じた排泄支援を行っている。排泄機能や身体機能を維持できるよう日中はトイレでの排泄支援を心掛けている。	排泄パターンを参考に声掛けし、日中はトイレでの排泄を基本に支援している。リハビリパンツとパット使用が主であるが布パンツを維持している利用者もあり、個々に合った排泄用品を検討して使用している。夜間はポータブルトイレやオムツも必要に応じて使用している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適切な水分摂取や食物繊維の多い食品の利用など便秘予防のための支援を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	個々の入居者に合わせて湯船に浸かったり、シャワー浴にしたりと希望に合わせた支援を行っている。	週3回午前中の中の入浴を基本に、回数は希望で柔軟に対応している。浴槽に入ったり、シャワー浴を支援し、入浴剤やゆず湯で楽しんでいる。嫌がる場合は、無理強いせず時間や日を変えて声掛けしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に応じて寝具や部屋の明るさ、室温を調整し安眠できるよう支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を確認して目的や副作用を理解し、変更があった場合もスタッフ間で朝礼や申し送りノートで情報を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな嗜好品を用意したり、好きなテレビ番組を見てもらったり、得意な家事活動を行ってもらするなど個々の入居者が楽しみや役割をもって生活できるよう支援を行なっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ感染防止対策のため外出支援は行っていない。	近隣の散歩や玄関前で外気浴・日光浴をする等、コロナ感染予防対策を取りながら、戸外に出る機会を設けている。受診時にドライブを兼ねて遠回りすることもある。今後はコロナ等の感染状況を見ながら外出支援に取り組む計画である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持は行っていないが、事業所でお金を預かり欲しいものがある時は本人から希望を聞いてスタッフが購入を代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話を所持し好きな時に家族に連絡したり、施設の電話で家族への連絡も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごせるよう季節や昼夜によって部屋の明るさや室温の調節を行っている。時季に応じた花や壁の装飾を行い季節を感じて頂けるよう工夫している。	ホールは空気清浄機や加湿器・エアコンで適度な室内環境に調節している。季節の作品を飾り、室内でも季節を感じてもらえるよう工夫している。玄関先のソファ等の好きな場所で、それぞれがくつろげるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で会話を楽しんだり、テレビの好きな方は見やすいよう配慮したり思い思いに過ごせるよう工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや仏壇を持ってきたり、家族の写真を飾るなど自宅での生活や家族を近くに感じて過ごせるよう配慮している。	居室にはベッドやタンス・エアコンが備えてあり、寝具はリースで清潔に保たれている。本人は自宅等で使い慣れたテレビやラジオ・仏壇・テーブル・ハンガーラック・寝具等を持ち込んだり、時計や写真・ぬいぐるみを身近に飾って、落ち着いて過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒なく移動や起居動作ができるよう、家具の配置やベッドの高さなど個々に応じて決めている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない